令和８年８月２７日

館林市立学校適正規模・適正配置
西地区検討委員会

第３回　議題資料

目次

１．西地区における学校再編の方向性（案）について‥‥２
２．学校再編の組合せの検討にあたって‥‥‥‥‥‥‥‥‥３
３．学校再編の組合せ（小学校）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥４～１５
４．学校再編の組合せ（中学校）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥１６～３４

■付属資料集

付属資料１　各小中学校からの通学距離
付属資料２　学校施設の状況

1　西地区における学校再編の方向性（案）について

第2回検討委員会での意見等を踏まえ、西地区については次のような学校再編の方向性とします。

（1）小学校の学校再編について

①小学校は2校又は3校に統合して適正規模を維持する

②第六小学校の学校区を見直して分散進学を解消する

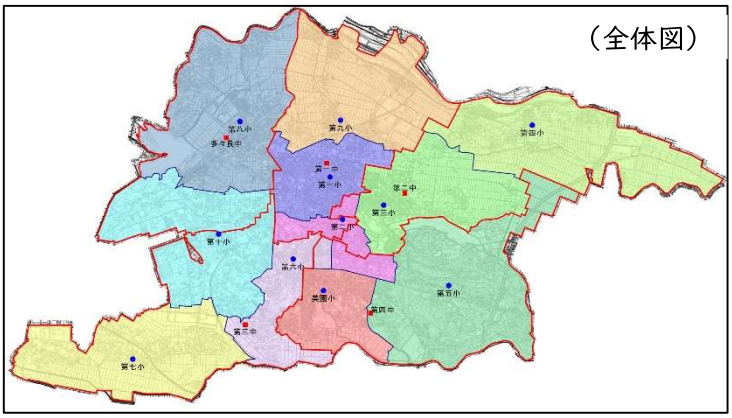
③第十小学校の学校区を見直して分散進学を解消する

（2）中学校の学校再編について

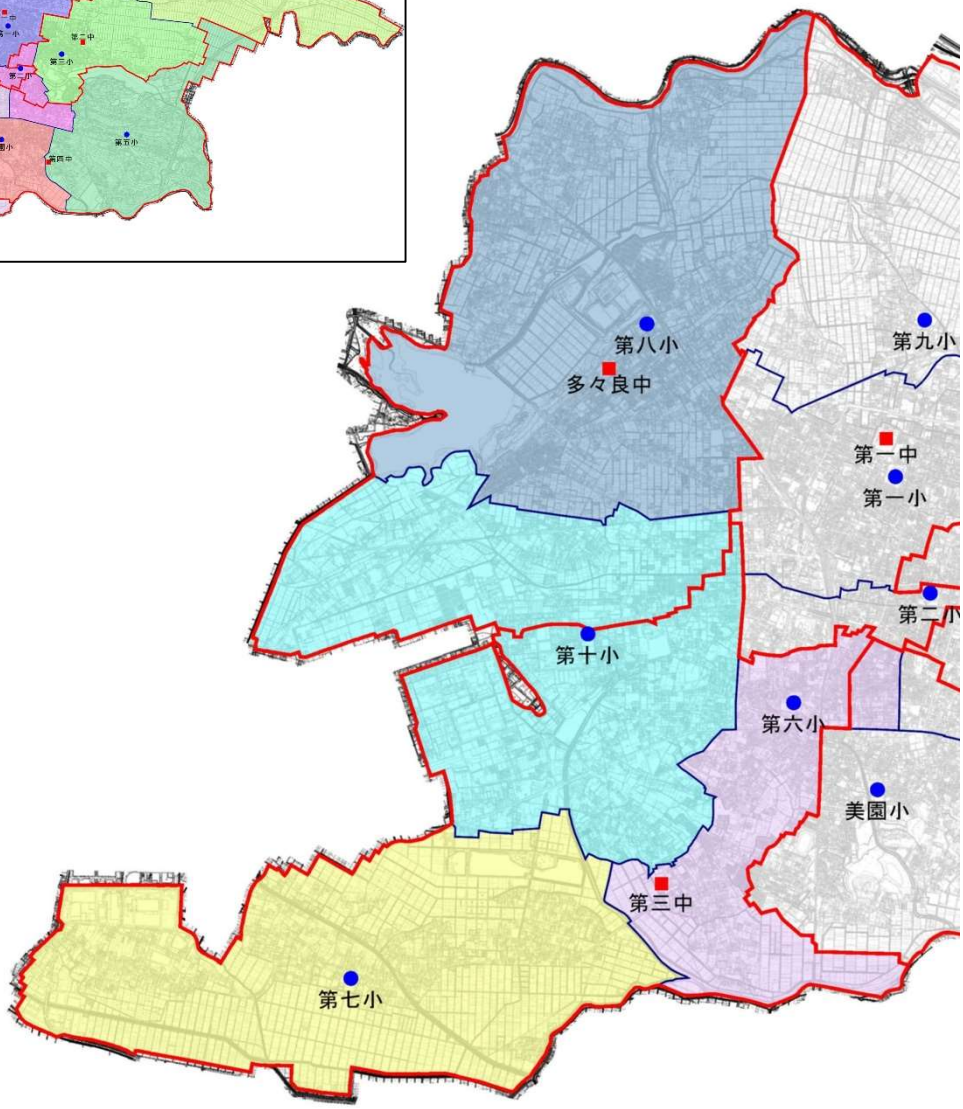
小学校の再編後、中学校同士を統合して適正規模を維持する

（同地区内又は他地区）

（全体図）



（西地区拡大図）



２　学校再編の組合せの検討にあたって

①はじめに小学校の組合せを検討します。

②次に中学校の組合せを検討します。

中学校の組合せについては、小学校の組合せのうち、再編校（小学校）全てが令和 19 年度時点において、適正規模を満たすパターンに限り検討することとします。

３　学校再編の組合せ（小学校）

■中学校区内を基本とした統合パターン

	小学校						R19規模	進学先	パターン
A	再編校Ａ	六小（全員）	＋	七小	＋	十小（三中学区）	○	三中	六小（全員）、七小、十小（三中学区）を統合
	再編校Ｂ	八小	＋	十小（多中学区）			○	多中	八小、十小（多中学区）を統合

■他地区への学区変更が必要な統合パターン

	小学校						R19規模	進学先	パターン
B	再編校	六小（三中学区）	＋	七小	＋	十小（全員）	○	三中	六小（三中学区）、七小、十小（全員）を統合
	八小						○	多中	八小は統合の対象とせず、現状を維持
	六小（四中学区）		⇒	南地区再編校へ			―	四中	六小（四中学区）は南地区の再編校へ就学
C	再編校Ａ	六小（三中学区）	＋	七小	＋	十小（三中学区）	○	三中	六小（三中学区）、七小、十小（三中学区）を統合
	再編校Ｂ	八小	＋	十小（多中学区）			○	多中	八小、十小（多中学区）を統合
	六小（四中学区）		⇒	南地区再編校へ			―	四中	六小（四中学区）は南地区の再編校へ就学

３　学校再編の組合せ（小学校）

■適正規模未満の学校同士の統合パターン

	小学校					R19規模	進学先	パターン
D	再編校Ａ	六小（全員）	＋	七小		×	三中	六小（全員）と七小を統合
	十小（全員）					○		十小（全員）は統合の対象とせず、現状を維持
	八小					○	多中	八小は統合の対象とせず、現状を維持
E	再編校	六小（全員）	＋	七小	＋ 十小（全員）	○	三中	六小（全員）、七小、十小（全員）を統合
	八小					○	多中	八小は統合の対象とせず、現状を維持

３．学校再編の組合せ（小学校）　パターンA

➢付属資料1：小中学校通学距離
➢付属資料2：学校施設の状況

■パターンの考え方

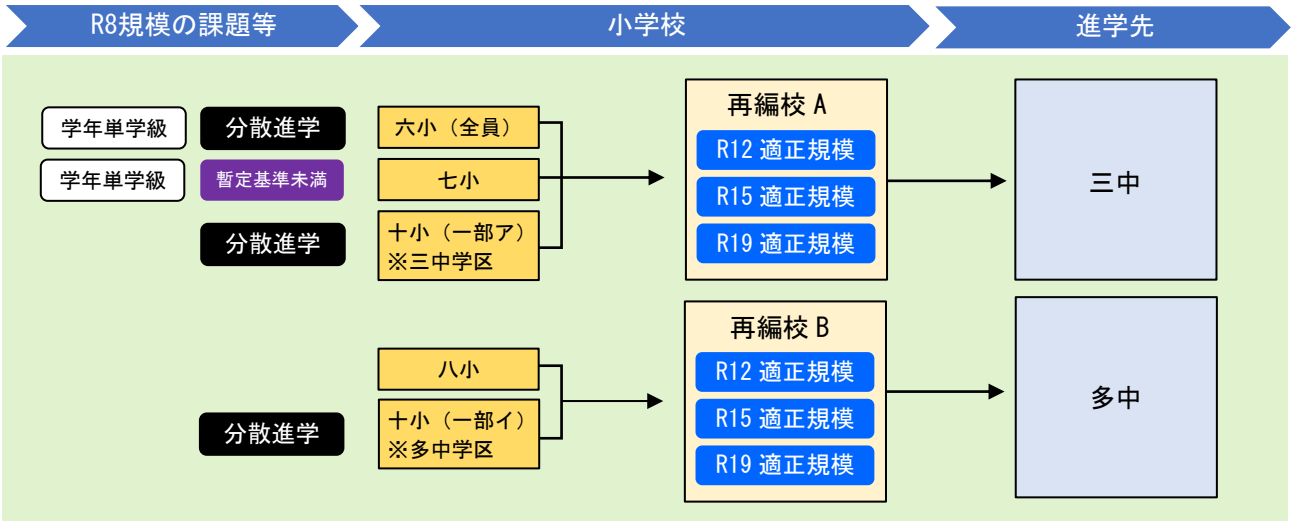
・十小学区の児童を三中学区と多中学区に再編し分散進学の解消を図る

・六小は四中学区の児童を三中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を三中学区として分散進学の解消を図る

■再編方法

・六小（全員）、七小、十小（三中学区）を統合する（進学先：三中）

・八小、十小（多中学区）を統合する（進学先：多中）



※十小の一部ア（三中学区：赤土町、近藤町、苗木町、富士原町の一部、成島町の一部）
※十小の一部イ（多中学区：大谷町、成島町、赤土町の一部）

■小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
六小	257	11	212	8	209	9	201	8	194	7	187	7	180	7	173	7	167	7
七小	87	6	65	6	55	6	54	6	51	5	48	5	45	5	42	5	39	4
十小（一部ア）	－	－	227	－	225	－	224	－	216	－	208	－	200	－	193	－	186	－
再編校 A	－	－	504	18	489	18	479	18	461	18	443	18	425	17	408	16	392	15

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
八小	392	12	329	12	323	12	306	12	295	12	284	12	274	12	264	12	254	12
十小（一部イ）	－	－	112	－	105	－	105	－	101	－	97	－	93	－	90	－	87	－
再編校 B	－	－	441	17	428	17	411	17	396	16	381	14	367	13	354	13	341	12

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

※R8時点の特別支援学級数：六小（3）、七小（3）、八小（5）、十小（3）

■校地の比較

①再編校 A（六小、七小、十小）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
六小	S48	23,438	5,281	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
七小	S51	21,678	3,353	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 5.3km（緑町一丁目）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
十小	S53	21,339	5,729	26
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 5.6km（野辺町）			

②再編校 B（八小、十小）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
八小	S50	17,190	5,841	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（17）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（8）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 4.0km（成島町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
十小	S53	21,339	5,729	26
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（17）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（8）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約 5.1km（木戸町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）
※2 普通教室数は R12時点の再編校の学級数
※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計
※4 最長通学距離は、各小学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	324	11	299	10	271	9	271	9	276	9	262	9	233	9	213	9

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	282	9	267	9	255	9	237	9	226	9	219	9	204	8	202	8

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散進学	通学距離（最長）	教室数の確保※6						小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19										
再編校 A	○	○	○	解消	7.1km	六小	△	七小	×	十小	△	可	必要
再編校 B	○	○	○	解消	5.1km	八小	△	十小	○			可	不要

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満
※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる
△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要
×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3．学校再編の組合せ（小学校）　パターンB

■パターンの考え方

・六小は四中学区の児童を南地区の再編校へ就学する学区の見直しを行い、分散進学の解消を図る

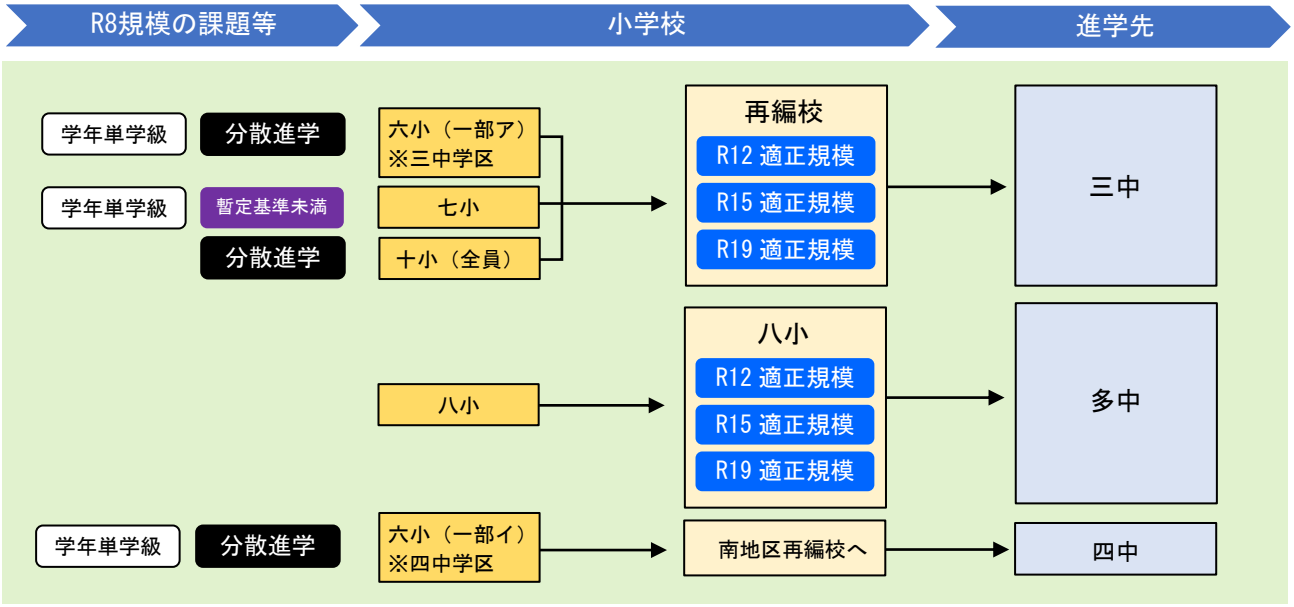
・十小は多中学区の児童を三中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を三中学区として分散進学の解消を図る

■再編方法

・六小（三中学区）、七小、十小（三中学区）を統合する（進学先:三中）

・八小は現状を維持する（進学先:多中）

・六小（四中学区）は南地区の再編校へ学区の見直しをする（進学先:四中）



※六小の一部ア（三中学区:青柳町、小桑原町、新宿一丁目、新宿二丁目、諏訪町、富士原町の一部、富士見町の一部）
※六小の一部イ（四中学区:緑町一丁目）

■小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
六小（一部ア）	－	－	187	－	184	－	173	－	167	－	161	－	155	－	149	－	143	－
七小	87	6	65	6	55	6	54	6	51	5	48	5	45	5	42	5	39	4
十小	421	15	342	12	332	12	329	13	317	13	305	12	294	12	283	12	273	12
再編校	－	－	594	22	571	20	556	20	535	20	514	19	494	18	474	17	455	17

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
八小	392	12	329	12	323	12	306	12	295	12	284	12	274	12	264	12	254	12

※R12~R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8~R14の増減率を基に算出。

※R8時点の特別支援学級数:六小（3）、七小（3）、八小（5）、十小（3）

■校地の比較

再編校（六小、七小、十小）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
六小	S48	23,438	5,281	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（22）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
七小	S51	21,678	3,353	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（22）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 5.7km（成島町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
十小	S53	21,339	5,729	26
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（22）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 5.6km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	397	12	368	12	335	12	324	12	319	11	304	10	270	9	252	9

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	196	7	187	6	182	6	173	6	169	6	164	6	156	6	154	6

シミュレーション結果

	適正規模※5 R12	R15	R19	分散進学	通学距離（最長）	教室数の確保※6						小中連携	他地区との協議
再編校	○	○	○	解消	7.1km	六小	△	七小	×	十小	△	可	必要
八小	○	○	○	—	—	—						可	—

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

３．学校再編の組合せ（小学校）　パターンＣ

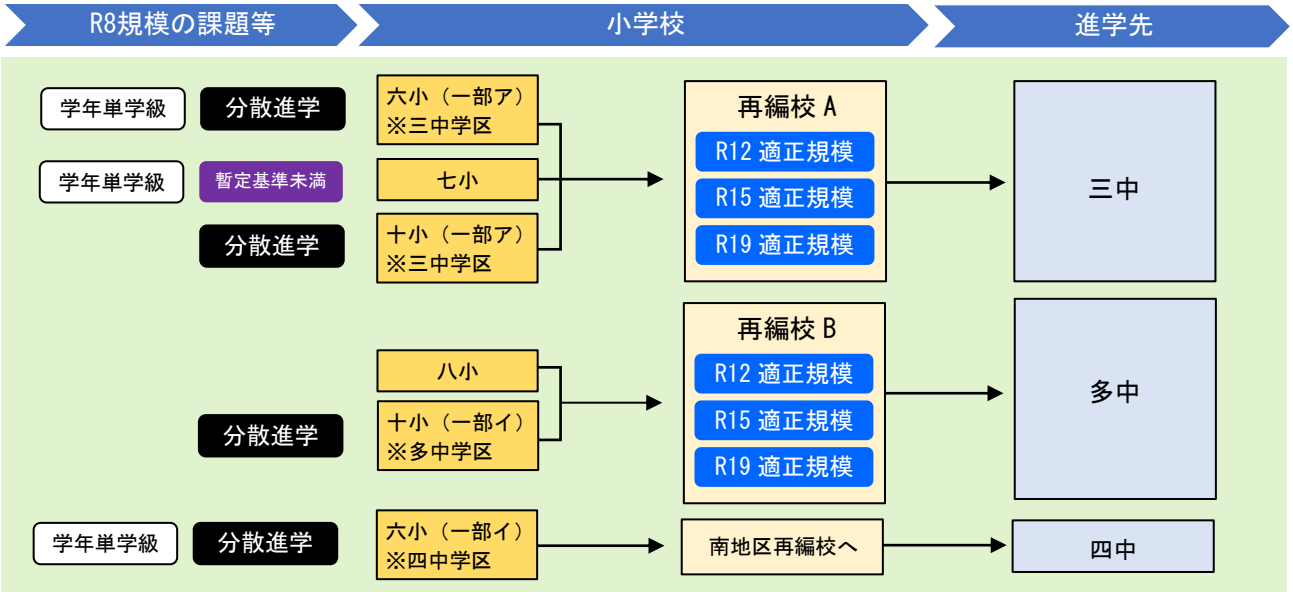
➢付属資料１：小中学校通学距離
➢付属資料２：学校施設の状況

■パターンの考え方

・十小の児童を三中学区と多中学区に再編し分散進学の解消を図る
・六小は四中学区の児童を南地区の再編校へ就学する学区の見直しを行い、分散進学の解消を図る

■再編方法

・六小（三中学区）、七小、十小（三中学区）を統合する（進学先：三中）
・八小、十小（多中学区）を統合する（進学先：多中）
・六小（四中学区）は南地区の再編校へ学区の見直しをする（進学先：四中）



※六小の一部ア（三中学区：青柳町、小桑原町、新宿一丁目、新宿二丁目、諏訪町、富士原町の一部、富士見町の一部）
※六小の一部イ（四中学区：緑町一丁目）
※十小の一部ア（三中学区：赤土町、近藤町、苗木町、富士原町の一部、成島町の一部）
※十小の一部イ（多中学区：大谷町、成島町、赤土町の一部）

■小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
六小（一部ア）	－	－	187	－	184	－	173	－	167	－	161	－	155	－	149	－	143	－
七小	87	6	65	6	55	6	54	6	51	5	48	5	45	5	42	5	39	4
十小（一部ア）	－	－	227	－	225	－	224	－	216	－	208	－	200	－	193	－	186	－
再編校 A	－	－	479	18	464	17	451	16	434	15	417	14	400	14	384	13	368	13

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
八小	392	12	329	12	323	12	306	12	295	12	284	12	274	12	264	12	254	12
十小（一部イ）	－	－	112	－	105	－	105	－	101	－	97	－	93	－	90	－	87	－
再編校 B	－	－	441	17	428	17	411	17	396	16	381	14	367	13	354	13	341	12

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

※R8時点の特別支援学級数：六小（3）、七小（3）、八小（5）、十小（3）

■校地の比較

①再編校 A（六小、七小、十小）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
六小	S48	23,438	5,281	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
七小	S51	21,678	3,353	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 5.7km（成島町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
十小	S53	21,339	5,729	26
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 5.6km（野辺町）			

②再編校 B（八小、十小）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
八小	S50	17,190	5,841	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（17）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（8）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 4.0km（成島町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
十小	S53	21,339	5,729	26
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（17）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（8）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約 5.1km（木戸町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）
※2 普通教室は R12時点の再編校の学級数
※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計
※4 最長通学距離は、各小学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	307	10	284	10	257	9	257	9	260	9	249	8	222	7	204	6

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	282	9	267	9	255	9	237	9	226	9	219	9	204	8	202	8

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散進学	通学距離（最長）	教室数の確保※6						小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19										
再編校 A	○	○	○	解消	7.1km	六小	△	七小	×	十小	△	可	必要
再編校 B	○	○	○	解消	5.1km	八小	△	十小	○			可	不要

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満
※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる
　△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要
　×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

３．学校再編の組合せ（小学校）　パターンD

➢付属資料1：小中学校通学距離
➢付属資料2：学校施設の状況

■パターンの考え方

・六小は四中学区の児童を三中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を三中学区として分散進学の解消を図る

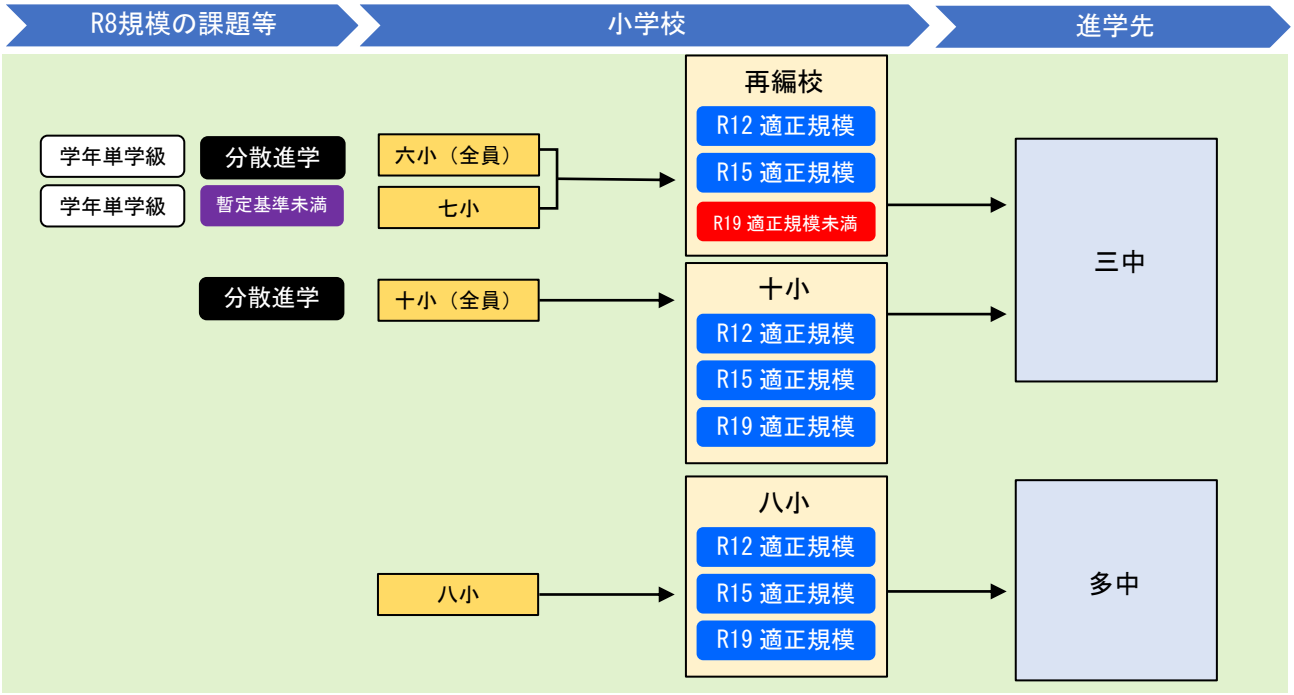
・十小は多中学区の児童を三中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を三中学区として分散進学の解消を図る

■再編方法

・六小（全員）、七小を統合する（進学先：三中）

・十小（全員）は現状を維持する（進学先：三中）

・八小は現状を維持する（進学先：多中）



■小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
六小	257	11	212	8	209	9	201	8	194	7	187	7	180	7	173	7	167	7
七小	87	6	65	6	55	6	54	6	51	5	48	5	45	5	42	5	39	4
再編校	－	－	277	12	264	12	255	12	245	12	235	12	225	11	215	9	206	8

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
八小	392	12	329	12	323	12	306	12	295	12	284	12	274	12	264	12	254	12

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
十小	421	15	342	12	332	12	329	13	317	13	305	12	294	12	283	12	273	12

※R8時点の特別支援学級数：六小（3）、七小（3）、八小（5）、十小（3）

■校地の比較

再編校（六小・七小）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
六小	S48	23,438	5,281	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（12）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（6）を確保できる見込み			
	・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
七小	S51	21,678	3,353	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（12）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 5.4km（緑町一丁目）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	414	14	383	13	349	12	338	12	335	12	317	11	281	10	261	9

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	196	7	187	6	182	6	173	6	169	6	164	6	156	6	154	6

シミュレーション結果

	適正規模※5 R12	R15	R19	分散進学	通学距離（最長）	普通（特支）教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
再編校	○	○	×	解消	7.1km	六小	○	七小	△	可	必要
十小	○	○	○	解消	—	—				可	—
八小	○	○	○	—	—	—				可	—

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

３．学校再編の組合せ（小学校）　パターンE

■パターンの考え方

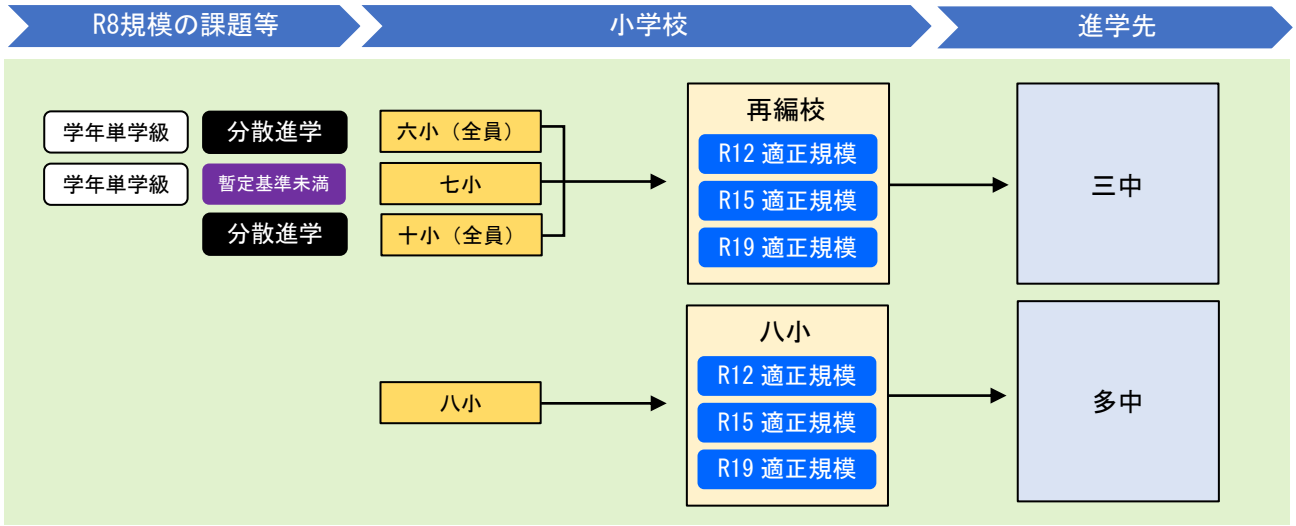
・十小は多中学区の児童を三中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を三中学区として分散進学の解消を図る

・六小は四中学区の児童を三中学区とする学区の見直しを行い、児童全員を三中学区として分散進学の解消を図る

■再編方法

・六小（全員）、七小、十小（全員）を統合する（進学先：三中）

・八小は現状を維持する（進学先：多中）



■小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
六小	257	11	212	8	209	9	201	8	194	7	187	7	180	7	173	7	167	7
七小	87	6	65	6	55	6	54	6	51	5	48	5	45	5	42	5	39	4
十小	421	15	342	12	332	12	329	13	317	13	305	12	294	12	283	12	273	12
再編校	－	－	619	23	596	21	584	21	562	21	540	19	519	18	498	17	479	17

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
八小	392	12	329	12	323	12	306	12	295	12	284	12	274	12	264	12	254	12

※R8時点の特別支援学級数：六小（3）、七小（3）、八小（5）、十小（3）

■校地の比較

再編校（六小、七小、十小）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
六小	S48	23,438	5,281	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（23）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
七小	S51	21,678	3,353	14
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（23）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 5.3km（緑町一丁目）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
十小	S53	21,339	5,729	26
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（23）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（9）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 5.6km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室はR12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	414	14	383	13	349	12	338	12	335	12	317	11	281	10	261	9

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	196	7	187	6	182	6	173	6	169	6	164	6	156	6	154	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散進学	通学距離（最長）	教室数の確保※6						小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19										
再編校	○	○	○	解消	7.1km	六小	×	七小	×	十小	△	可	必要
八小	○	○	○	—	—	—						可	—

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

４　学校再編の組合せ（中学校）

■西地区内で統合するパターン

	小学校						R19規模		中学校				R19規模
A′	再編校A	六小（全員）	＋	七小	＋	十小（三中学区）	○	⇒	三中	⇒	三中	＋ 多中	○
	再編校Ｂ	八小	＋	十小（多中学区）			○	⇒	多中				
	小学校パターンＡを基にした三中と多中の統合												
B′	再編校	六小（三中学区）	＋	七小	＋	十小（全員）	○	⇒	三中	⇒	三中	＋ 多中	○
	八小						○	⇒	多中				
	小学校パターンＢを基にした三中と多中の統合												
C′	再編校Ａ	六小（三中学区）	＋	七小	＋	十小（三中学区）	○	⇒	三中	⇒	三中	＋ 多中	○
	再編校Ｂ	八小	＋	十小（多中学区）			○	⇒	多中				
	小学校パターンＣを基にした三中と多中の統合												
E′	再編校	六小（全員）	＋	七小	＋	十小（全員）	○	⇒	三中	⇒	三中	＋ 多中	○
	八小						○	⇒	多中				
	小学校パターンＥを基にした三中と多中の統合												

４　学校再編の組合せ（中学校）

■地域性を考慮し、他地区と統合するパターン

	小学校							R19規模		中学校					R19規模
A''	再編校Ａ	六小（全員）	＋	七小	＋	十小（三中学区）		○	⇒	三中	⇒	三中	＋	四中	○
	四中構成小学校							○	⇒	四中					
	再編校Ｂ	八小	＋	十小（多中学区）				○	⇒	多中	⇒	多中			×
	小学校パターンＡを基にした三中と四中の統合														
B''	再編校	六小（三中学区）	＋	七小	＋	十小（全員）		○	⇒	三中	⇒	三中	＋	四中	○
	四中構成小学校							○	⇒	四中					
	八小							○	⇒	多中	⇒	多中			×
	小学校パターンＢを基にした三中と四中の統合														
C''	再編校Ａ	六小（三中学区）	＋	七小	＋	十小（三中学区）		○	⇒	三中	⇒	三中	＋	四中	○
	四中構成小学校							○	⇒	四中					
	再編校Ｂ	八小	＋	十小（多中学区）				○	⇒	多中	⇒	多中			×
	小学校パターンＣを基にした三中と四中の統合														
E''	再編校	六小（全員）	＋	七小	＋	十小（全員）		○	⇒	三中	⇒	三中	＋	四中	○
	四中構成小学校							○	⇒	四中					
	八小							○	⇒	多中	⇒	多中			×
	小学校パターンＥを基にした三中と四中の統合														

４　学校再編の組合せ（中学校）

■上記2の場合に、多中の適正規模を維持する統合パターン

<table>
<tr><th></th><th>小学校</th><th></th><th colspan="3">中学校</th><th>R19
規模</th></tr>
<tr><td rowspan="3">F</td><td>現行の多中構成小学校</td><td>⇒</td><td>多中</td><td rowspan="2">⇒</td><td rowspan="2">多中　＋　一中</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>現行の一中構成小学校</td><td>⇒</td><td>一中</td></tr>
<tr><td colspan="6">現行の中学校を基にした多中と一中の統合</td></tr>
</table>

※F パターンは、上記2の他地区との統合（三中＋四中）により検討を要するパターンであるため、本ページにパターンのみを掲載しています。

４．学校再編の組合せ（中学校）　パターンＡ′

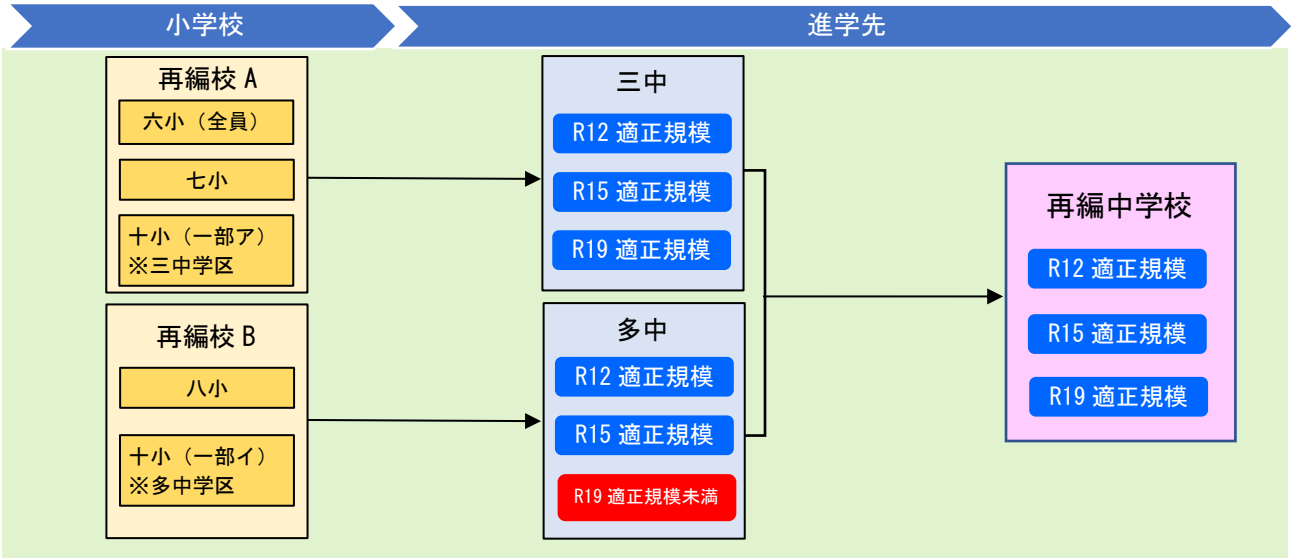
➢付属資料１：小中学校通学距離
➢付属資料２：学校施設の状況

■パターンの考え方

・小学校Aパターンを基にした中学校同士の統合

■再編方法

・三中と多中を統合する



■中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	324	11	299	10	271	9	271	9	276	9	262	9	233	9	213	9
多中	－	－	282	9	267	9	255	9	237	9	226	9	219	9	204	8	202	8
再編中学校	－	－	606	19	566	17	526	16	508	15	502	15	481	15	437	14	415	14

※R8時点の特別支援学級数：三中（2）、多中（3）

■校地の比較（三中、多中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（19）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（5）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 6.9km（木戸町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
多中	S54	25,474	4,635	18
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（19）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（5）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	7.1km	三中	△	多中	×	可	必要

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

４．学校再編の組合せ（中学校）　パターンB′

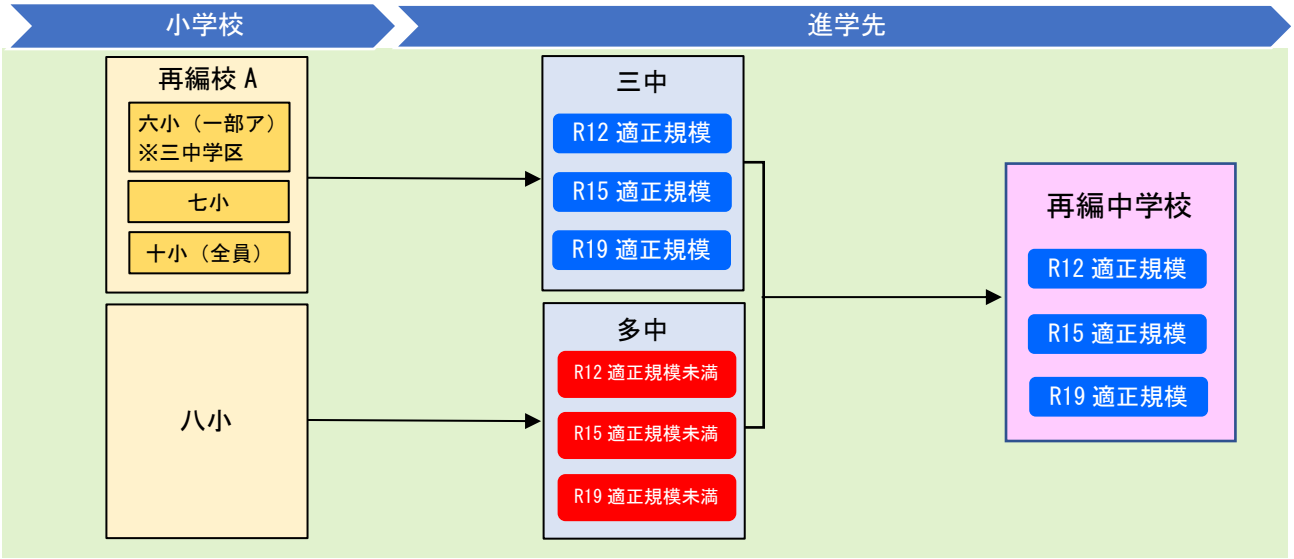
➢付属資料1：小中学校通学距離
➢付属資料2：学校施設の状況

■パターンの考え方

・小学校Bパターンを基にした中学校同士の統合

■再編方法

・三中と多中を統合する



■中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	397	12	368	12	335	12	324	12	319	11	304	10	270	9	252	9
多中	－	－	196	7	187	6	182	6	173	6	169	6	164	6	156	6	154	6
再編中学校	－	－	593	18	555	17	517	16	497	15	488	15	468	15	426	14	406	13

※R8時点の特別支援学級数：三中（2）、多中（3）

■校地の比較（三中、多中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（5）を確保できる見込み			
	・最長通学距離※4：約 6.9km（木戸町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
多中	S54	25,474	4,635	18
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（5）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	7.1km	三中	○	多中	△	可	必要

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

４．学校再編の組合せ（中学校）　パターンC′

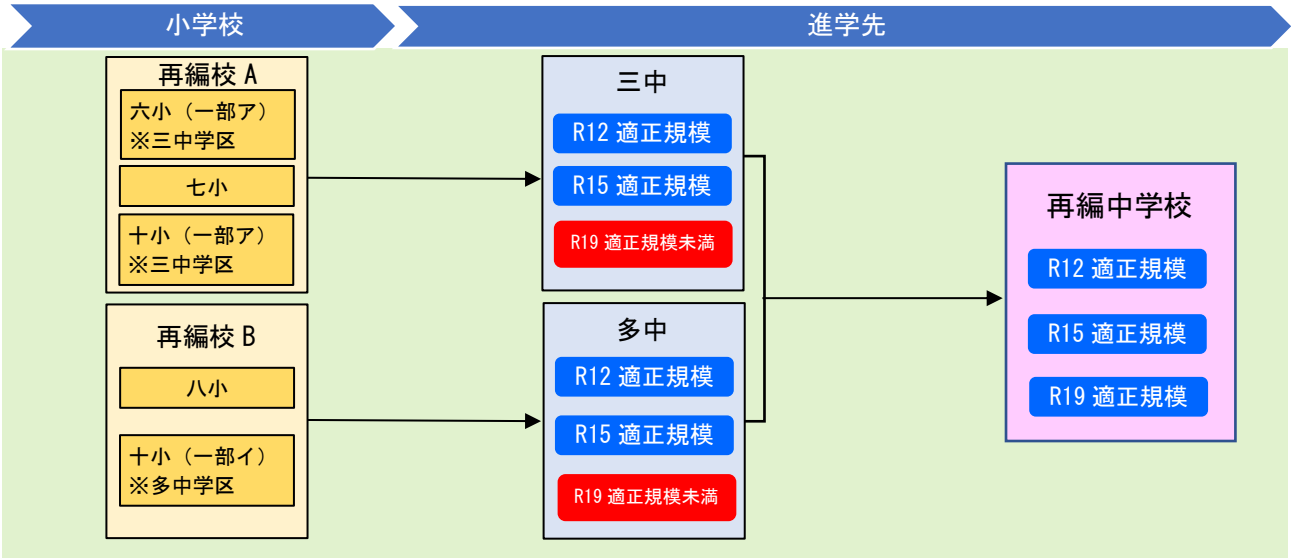
➢付属資料1：小中学校通学距離
➢付属資料2：学校施設の状況

■パターンの考え方

・小学校Cパターンを基にした中学校同士の統合

■再編方法

・三中と多中を統合する



■中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	307	10	284	10	257	9	257	9	260	9	249	8	222	7	204	6
多中	－	－	282	9	267	9	255	9	237	9	226	9	219	9	204	8	202	8
再編中学校	－	－	589	18	551	17	512	15	494	15	486	15	468	15	426	14	406	13

※R8時点の特別支援学級数：三中（2）、多中（3）

■校地の比較（三中、多中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（5）を確保できる見込み			
	・最長通学距離※4：約 6.9km（木戸町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
多中	S54	25,474	4,635	18
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（5）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	7.1km	三中	○	多中	△	可	必要

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

４．学校再編の組合せ（中学校）　パターンE′

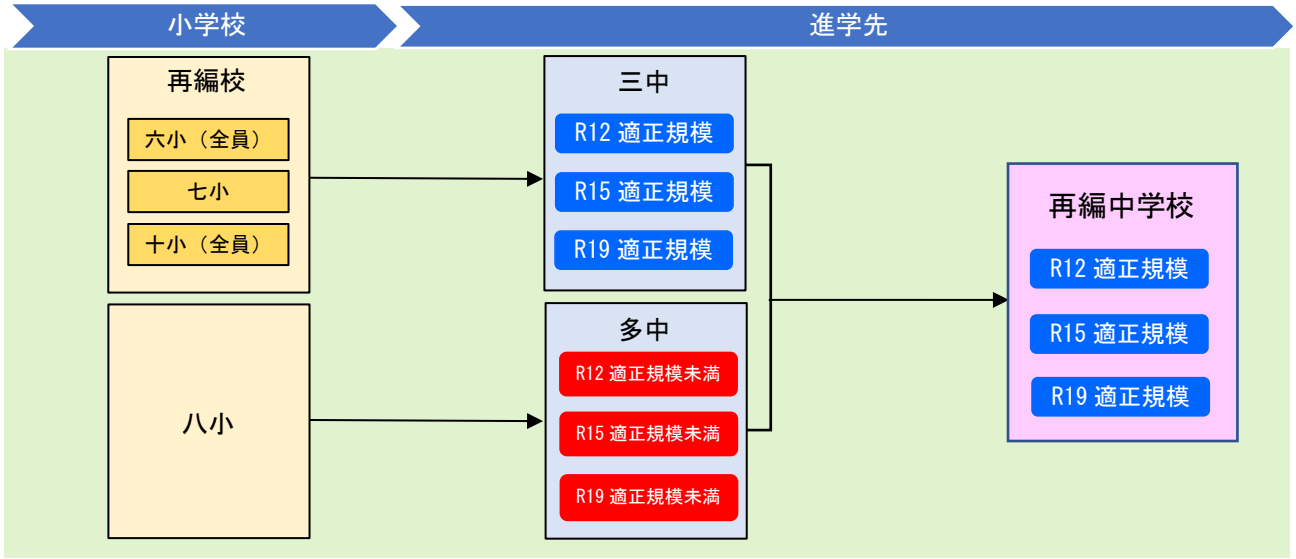
➢付属資料1：小中学校通学距離
➢付属資料2：学校施設の状況

■パターンの考え方

・小学校Eパターンを基にした中学校同士の統合

■再編方法

・三中と多中を統合する



■中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	414	14	383	13	349	12	338	12	335	12	317	11	281	10	261	9
多中	－	－	196	7	187	6	182	6	173	6	169	6	164	6	156	6	154	6
再編中学校	－	－	610	19	570	17	531	16	511	15	504	15	481	15	437	14	415	14

※R8時点の特別支援学級数：三中（2）、多中（3）

■校地の比較（三中、多中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（19）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（5）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 6.9km（木戸町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
多中	S54	25,474	4,635	18
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（19）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（5）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 7.1km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	7.1km	三中	△	多中	×	可	必要

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

４．学校再編の組合せ（中学校）　パターンＡ’’

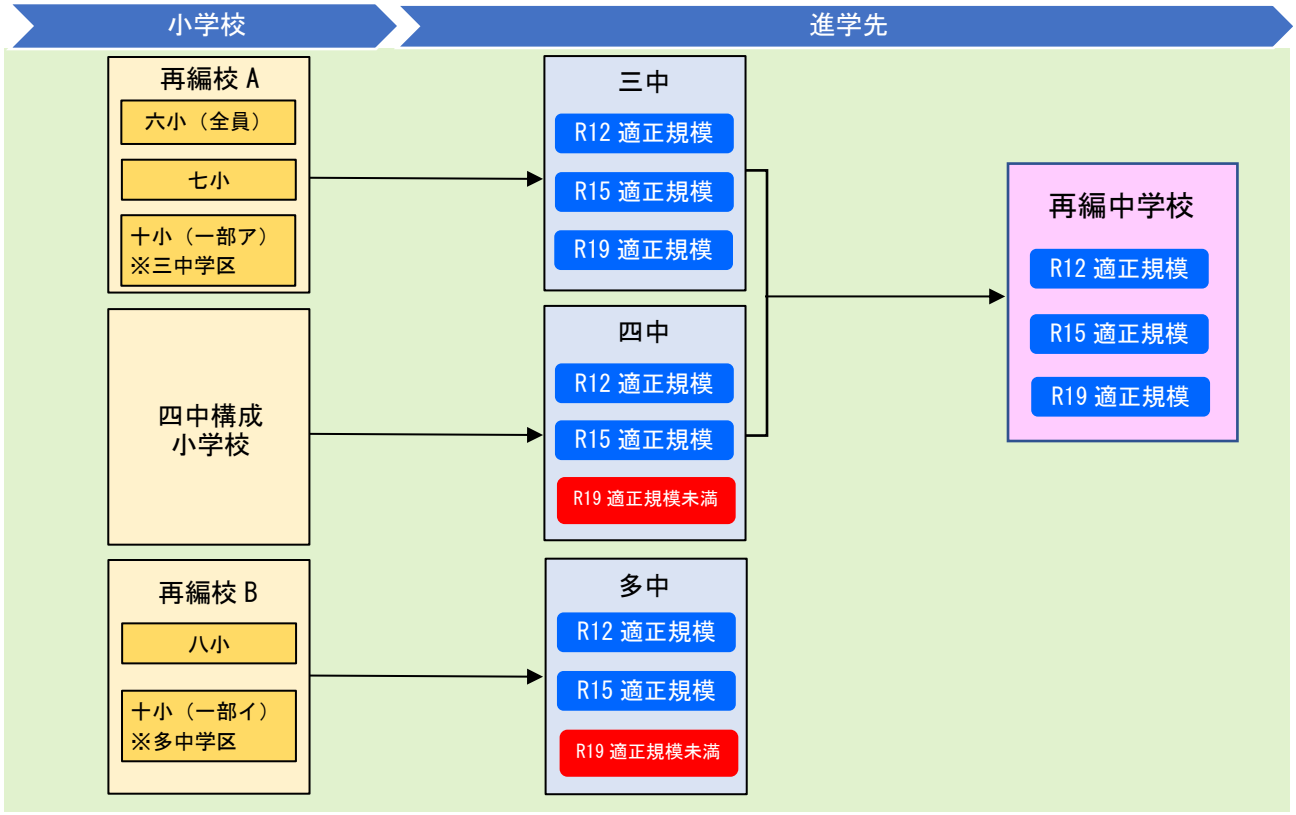
➢付属資料１：小中学校通学距離
➢付属資料２：学校施設の状況

■パターンの考え方

・小学校Aパターンを基にした他地区をまたぐ中学校同士の統合

■再編方法

・三中と四中を統合する



■中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	324	11	299	10	271	9	271	9	276	9	262	9	233	9	213	9
四中	－	－	321	11	300	10	267	9	266	9	262	9	236	8	226	8	192	7
再編中学校	－	－	645	20	599	19	538	17	537	17	538	17	498	16	459	15	405	13

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	282	9	267	9	255	9	237	9	226	9	219	9	204	8	202	8

※R8時点の特別支援学級数：三中（2）、四中（4）、多中（3）

■校地の比較（三中、四中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 6.8km（羽附旭町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
四中	S59	59,552	5,455	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 8.6km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	8.6km	三中	△	四中	△	可	必要
多中	○	○	×	—	—				可	—

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

４．学校再編の組合せ（中学校）　パターンB’’

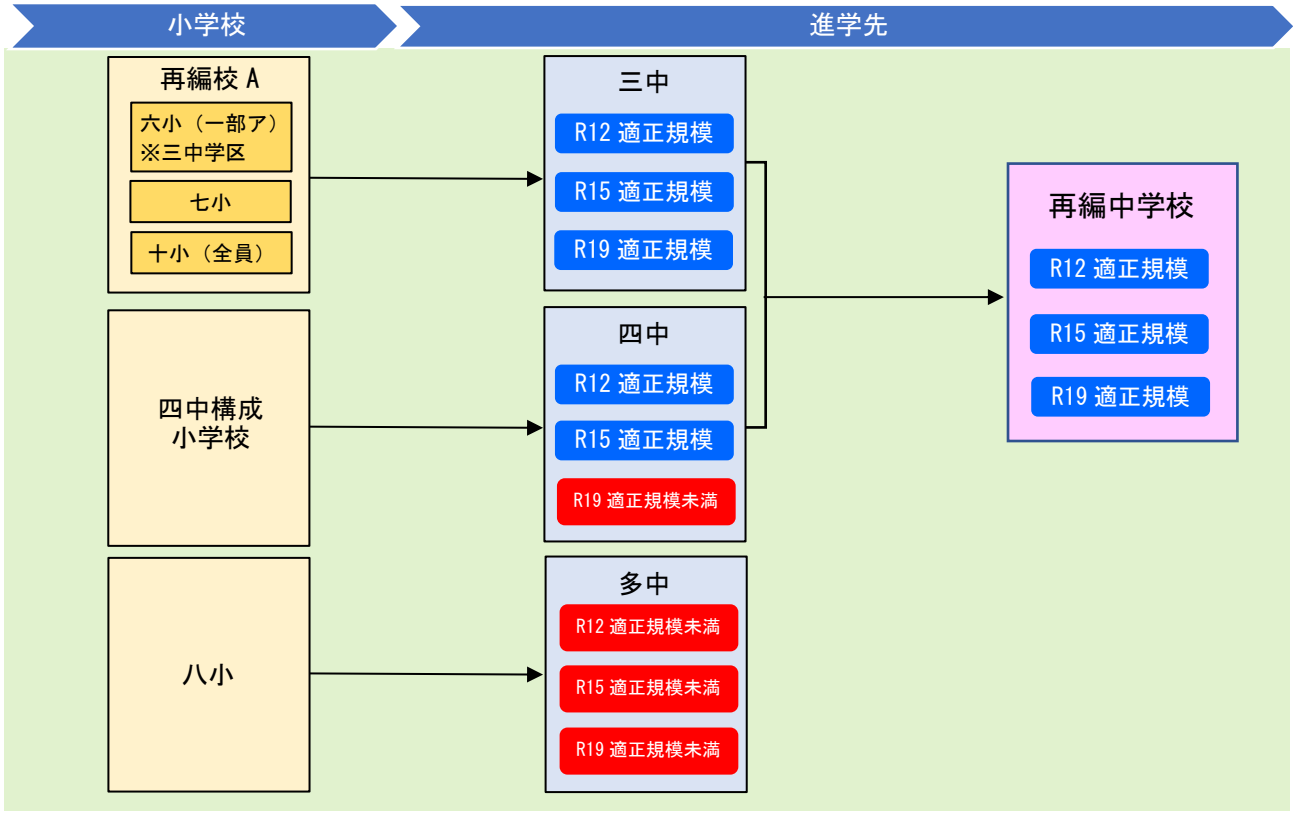
➢付属資料1:小中学校通学距離
➢付属資料2:学校施設の状況

■パターンの考え方

・小学校Bパターンを基にした他地区をまたぐ中学校同士の統合

■再編方法

・三中と四中を統合する



■中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	397	12	368	12	335	12	324	12	319	11	304	10	270	9	252	9
四中	－	－	330	11	309	10	276	9	277	9	276	9	249	8	237	8	201	7
再編中学校	－	－	727	23	677	21	611	19	601	18	595	18	553	17	507	16	453	15

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	196	7	187	6	182	6	173	6	169	6	164	6	156	6	154	6

※R8時点の特別支援学級数:三中(2)、四中(4)、多中(3)

■校地の比較（三中、四中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（23）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 6.8km（羽附旭町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
四中	S59	59,552	5,455	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（23）の確保に課題がある			
	・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 8.6km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	8.6km	三中	△	四中	×	可	必要
多中	×	×	×	—	—				可	—

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

４．学校再編の組合せ（中学校）　パターンC′′

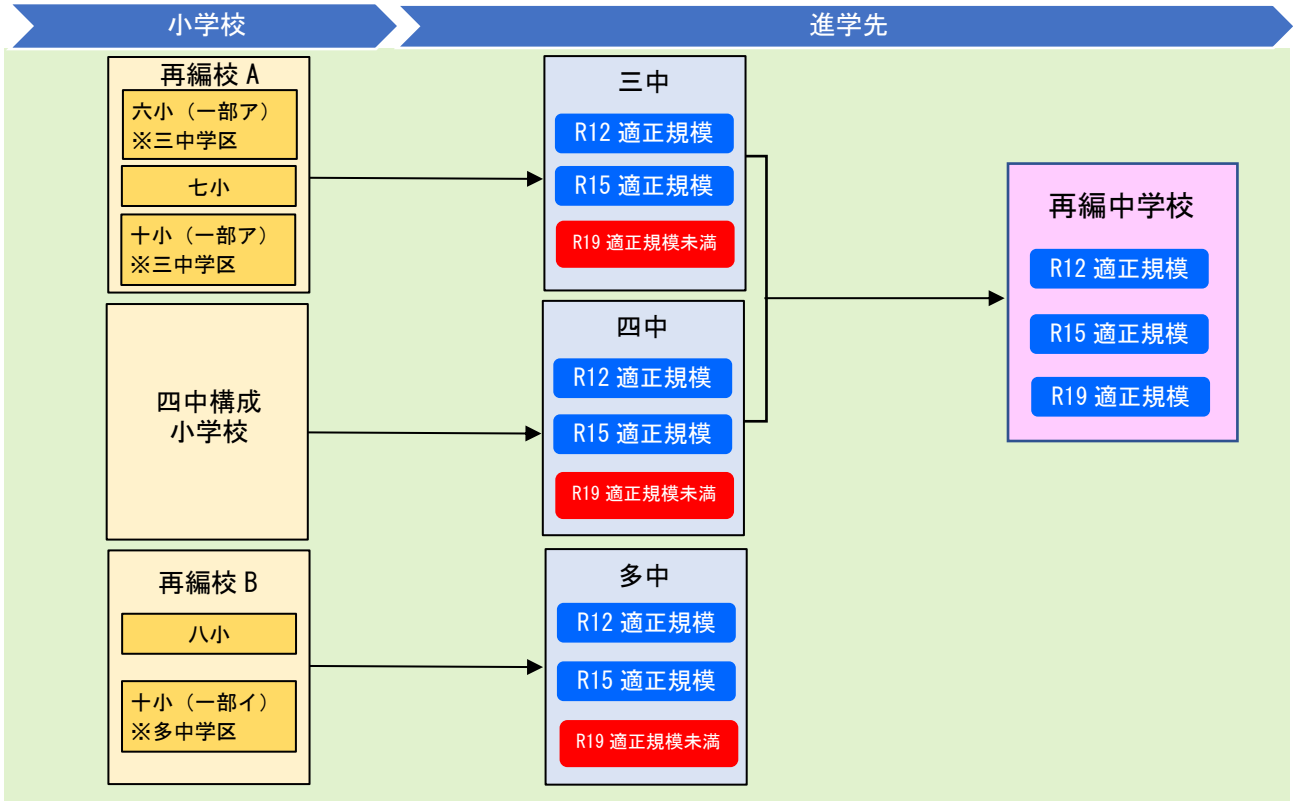
➢付属資料1：小中学校通学距離
➢付属資料2：学校施設の状況

■パターンの考え方

・小学校Cパターンを基にした他地区をまたぐ中学校同士の統合

■再編方法

・三中と四中を統合する



■中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	307	10	284	10	257	9	257	9	260	9	249	8	222	7	204	6
四中	－	－	330	11	309	10	276	9	277	9	276	9	249	8	237	8	201	7
再編中学校	－	－	637	20	593	19	533	17	534	17	536	17	498	16	459	15	405	13

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	282	9	267	9	255	9	237	9	226	9	219	9	204	8	202	8

※R8時点の特別支援学級数：三中（2）、四中（4）、多中（3）

■校地の比較（三中、四中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 6.8km（羽附旭町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
四中	S59	59,552	5,455	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（20）を確保できる見込み			
	・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある			
	・最長通学距離※4：約 8.6km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	8.6km	三中	△	四中	△	可	必要
多中	○	○	×	—	—				可	—

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

４．学校再編の組合せ（中学校）　パターンE’’

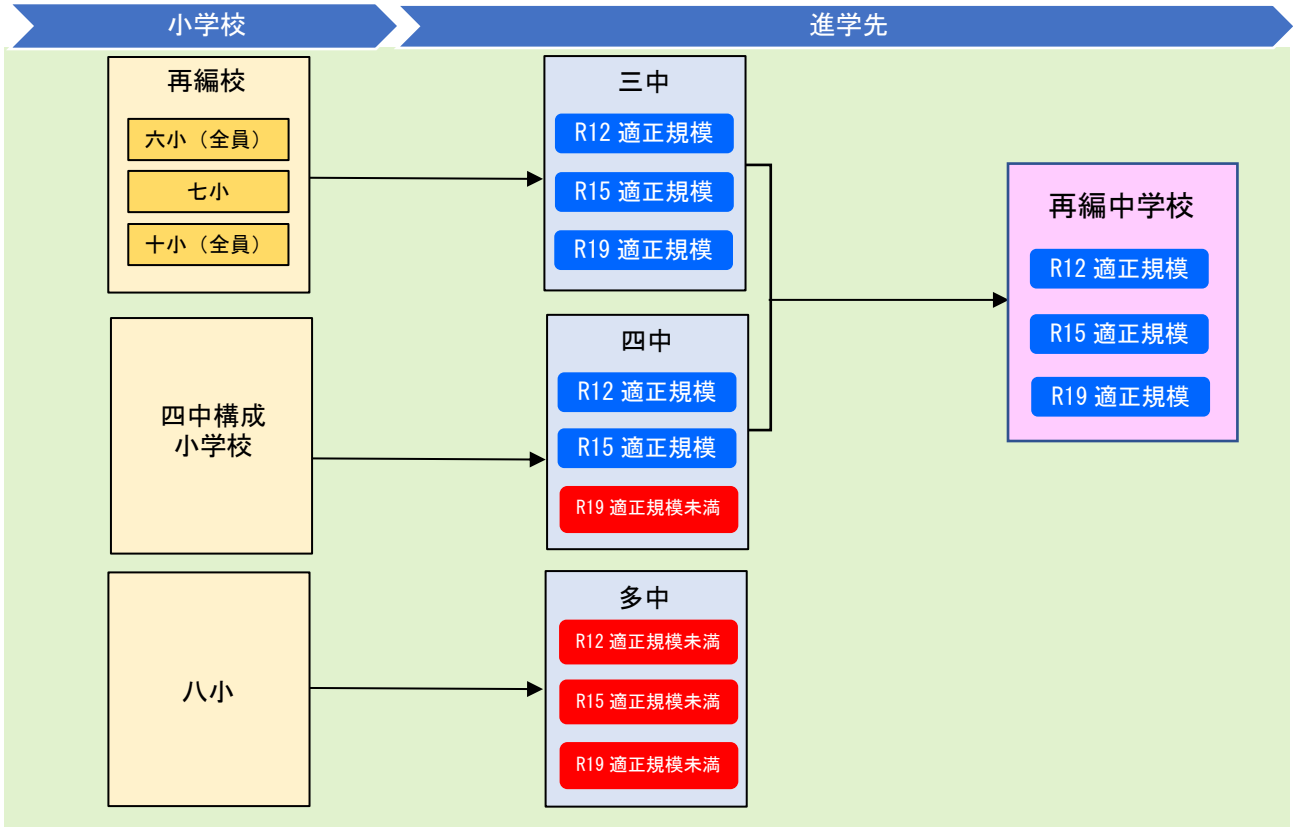
➢付属資料1：小中学校通学距離
➢付属資料2：学校施設の状況

■パターンの考え方

・小学校Eパターンを基にした他地区をまたぐ中学校同士の統合

■再編方法

・三中と四中を統合する



■中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三中	－	－	414	14	383	13	349	12	338	12	335	12	317	11	281	10	261	9
四中	－	－	321	11	300	10	267	9	266	9	262	9	236	8	226	8	192	7
再編中学校	－	－	735	23	683	21	616	19	604	18	597	18	553	17	507	16	453	15

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
多中	－	－	196	7	187	6	182	6	173	6	169	6	164	6	156	6	154	6

※R8時点の特別支援学級数：三中（2）、四中（4）、多中（3）

■校地の比較（三中、四中）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（23）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 6.8km（羽附旭町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
四中	S59	59,552	5,455	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（23）の確保に課題がある ・特別支援学級数※3（6）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 8.6km（野辺町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区域の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19							
再編中学校	○	○	○	8.6km	三中	△	四中	×	可	必要
多中	×	×	×	—	—				可	—

※5○：適正規模維持　×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要